

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 浅 池 慶 子 姉 妹

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 5:1 恵みゆたけき主を

恵みゆたけき主をほめたたえまつれ その御慈しみはときわに絶えせず
救われし御民よ厳かに歌え 憐れみとまことは変わるることなしと アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
 2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
 3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
 4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
 5. あなたの父と母を敬え。
 6. あなたは殺してはならない。
 7. あなたは姦淫してはならない。
 8. あなたは盗んではならない。
 9. あなたは隣人について偽証してはならない。
 10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。
- (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 5:2 悩み迫る時も

悩み迫る時も御名を呼ばわれれば 主はこたえたまいてこの身をば救い
いと広き所に憩わしめたもう 主共にましませば我に恐れなし アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 7 キ リ ス ト の 二 性 一 人 格

三位一体の第二位格である神の御子は、まことの永遠の神であり、み父と同質・同等でありながら、時満ちて、人間の性質を、それに属するすべての固有の性質や共通の弱さと共にとられ、しかも罪はなかった。彼は、聖霊の力により、処女マリアの胎に彼女の本質をとって身ごもられた。

そこで、二つの十全で区別された性質、すなわち、神性と人性とが、変換・合成・混合することなく、一つの人格の中に、分離できないように結合されている。この人格は、まことの神またまことの人であり、しかも一人のキリスト、神と人との間の唯一の仲保者である。(ウエストミンスター信仰告白8章2節によるカルケドン信条：451年)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 神学研修所 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書8章4～18節 (新約聖書118頁)

説教・祈祷 「聞く耳のある者(種まき・灯のたとえ)」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 33:1 昔主イエスマきたまいし

昔主イエスのまきたまいし いとも小さき命の種

芽生え育ちて地の果てまで その枝を張る樹とはなりぬ アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあげさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 63 天地こぞりて

あめつちこぞりて かしこみ讃えよ

み恵みあふるる 父・御子・御霊を アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇陽子長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：藤原宏章執事 2階：大日南隆夫執事／動画：大日南悠兄弟 録音：森川莞太兄弟

次週 受付 1階：古澤迪子執事 2階：大日南信也執事／動画：大日南信也執事 録音：雨宮信長老

I マルコ福音書をベースにしつつマタイとは違うルカの記述

各小見出しの下にマルコ福音書とマタイ福音書の箇所が書いてあるように、種まきのたとえはマタイ・マルコ・ルカの共観福音書共通のメッセージです。マルコ福音書が先に書かれたと言われるので、マタイとルカは、マルコ福音書を共通のテキストにしているわけですが、「種まきのたとえ」は、かなり書き方が違います。

マタイは、5～7章の山上の説教以来のまとまった説教集として13章に「天国のたとえ」を説明するたとえとして、かなり詳しく書いています。それに対してルカは、山上の説教の要素をあちこちに分散して書いています。そして「種まきのたとえ」は、「天国のたとえ」を説明するためではなく、「種まきのたとえ」自体にあるメッセージを独立して書いています。そこで「灯のたとえ」も合わせて、神の言葉はどのように聴くべきかというメッセージにしています。

ただ共通点もあります。たとえを用いて話す理由を弟子たちが聞いたら、イエス様は「聞いても悟らないものが多いからだ」と言われました。10節の二重カギかっこ『彼らが見ても見えず、聞いても理解できない』という文言は、旧約預言書の定型文句です（イザヤ6：9-10）。「聞いても悟らないものが多い」のは、預言通りの確認です。昔も今も、実はそうなのです。

II 御言葉の解き明かしが説教？

「たとえ」というのは、本来、分かりやすく説明するために使うものです。「たとえば、・・・」という風にです。たとえの性質上、説明しすぎたらたとえで語られた意味がなくなってしまうのです。しかし、三つの小見出しにあるように、「たとえと、たとえを話す理由と、たとえの説明」が全て語られているなら、説教者は、何を話せばよいのでしょうか。

これは、マルコ、マタイ、ルカに共通しているので、共観福音書を説教するなら必ずぶつかる問題です。もう解き明かされていることを解き明かすとはどういうことなのか、どうすればいいのか、という困った問題です。しかも、ここではイエス様が直接解き明かしておられるのです。

種とは神の言葉であり、蒔かれた場所の「道端」「石地」「茨」、「良い土地」も、みな説明済みです。イエス様のたとえは、聞く耳のある者は聞けということで、聞き方によっては必ずしも分かり易いとは限らなかったという点がヒントです。聞き方がよいと分かるが、聞き方が悪いと分からない。そのことを、イエス様は、8節の最後、「種まきのたとえ」を話してすぐ、「大声で言われた」のです。「**聞く耳のある者は聞きなさい**」。

そうすると、弟子たちは、おそらく、恐る恐る尋ねたのです。「このたとえはどんな意味ですか」と。つまり、弟子たちは聞き方が良くて分かったんじゃないのです。そして弟子たちが気になる点は、わたしたちも気になるので、そこが、説教のしどころです。同じたとえが語られたら、やはり、私たちが尋ねたくなるでしょう。

Ⅲ 弟子たちの聞き方

そこで弟子たちの身になって見れば、私たちも同じ気持ちになるのではないのでしょうか。弟子たちは、「自分たちは良い土地」だと思って尋ねたのでしょうか。イエス様は「良い土地に落ちた種は100倍の実を結ぶ」と言われたので、そうだ、俺たちは良い土地だと思ったのでしょうか。それなら質問しません。自信たっぷりです。

しかし、なんか分かるような分からないようなたとえ話だなど思いながら、「道端」「石地」「茨」とは誰だろうと不安になって尋ねたのではないのでしょうか。そうであれば、弟子たちの不安は、今の弟子たちの不安に続いているのです。「自分は、良い土地ではなく、道端ではないだろうか、石地ではないだろうか、茨ではないだろうか。」

実際、あとで弟子たちの中から裏切り者が出ました。十字架の現場では弟子たちは皆逃げてしまいました。今日も、多くの者が聞いて悟らない状態です。日本だけでなく、いわゆるキリスト教国で真の信仰を持ったクリスチャン人口はどんどん減っています。それでも、神の国は、世界史を貫いてどんどん広がってきました。これが神の国の秘密 (musteerion) です。

種明かしをすると、神の国はキリストを信じる信仰から始まるという点にあります。それは信じる人の心の中に起こる現象ですから見えません。ミステリー (musteerion) です。種は神の言葉であり、信仰は御言葉を聴くことから始まる神のわざです。主イエスに現わされた、神の愛と憐れみのわざです。

Ⅳ どう聞くべきかに注意せよ 灯のたとえ

不信仰への警告は、もちろんあります。「道端」「石地」「茨」になるな。良い土地で実を結ぶようになれ。ただし、良い土地で実を結ぶことは、良い土地に落ちたら自動的に実を結ぶものではありません。15節によると、「良い土地に落ちたのは、立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである」とあります。「立派な善い心」とは、罪のない清く正しい心ではありません。心の貧しい者であることを自覚して、御言葉を聴いて従う心です。だから、自動的に実を結ぶのではなく「忍耐して実を結ぶ」のです。信仰の生涯は、石地や茨と闘いながら信じ続けることです。

世俗化と世俗主義が神の位置を占めているこの世は、茨に満ちています。人生の思い煩いや富や快樂に、信仰がふさがれがちになります。しかし、「立派な善い心で御言葉を聞き、よく守る」なら、何を食べようか何を着ようかと思いつく心が訓練されます。「立派な善い心で御言葉を聞き、よく守る」なら、富や快樂が神の位置を占めることがないように訓練されます。神に仕える生活が第一で、そのために富や快樂を使うように訓練されず。富や快樂の元は、もともとエデンの園で神から与えられた賜物だったのです。

茨の冠をかぶったお方が私の心を支配してくださるなら、「忍耐して実を結ぶ」信仰を学びます。私たちの内なる原罪である、罪に陥ったアダムとエバが再生されて、エデンの園よりも多く100倍もの実を結ぶキリスト者となるよう訓練されます。「神の言葉」が私を支配していくなら、私と私の賜物を用いて、キリストは神の国を再創造していかれます。それがさらに神の国の秘密です。

その秘密を秘密のままにしておくな、というのが「灯のたとえ」です。信仰の灯がともったら、それはテーブルの下に置いて隠してはおけません。神の国の福音を宣教せずに

おれないので、人々に信仰の光が見えるようにテーブルの上に置きます。

17節「隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、人に知られず、公にならないものはない。」 18節「だから、どう聞くべきかに注意しなさい。持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っていると思うものまで取り上げられる。」